

活動名 地域における青少年のための多文化共生事業 「国際交流地域リーダーの養成と諸活動の展開」	団体名	国際交流ひらかわの風の会
	地域	山口県山口市
	代表者	会長 中村 幸士郎
	支援金額	30万円
活動概要		
<p>マツダ財団の活動支援により、平成22年度以降、留学生等と地域住民の交流活動が一層展開することができたことに、感謝いたします。</p> <p>平成23年度での主な活動として、新たに展開した「国際交流活動のリーダーの養成」では、地域の青少年(一般学生含む)を対象に「風の会学生部会」を立ち上げ、彼らにアドバイスしながら、留学生に「自国料理づくりと日常会話教室」を企画実行させることができた。</p> <p>また、地域住民を巻き込んで、「留学生のための農耕文化体験事業(米・野菜づくり)」を一年間を通じて実施するとともに、「地域の恒例行事への留学生等の参加醸成とサポート」を行った。</p>		
<p>◆実施時期 通年 山口市平川地域ほか</p> <p>◆参加人数 一行事当たり15～120人、毎月1～3回行事を通年で実施</p>		
参加総人員：786名(観客5,000人は除く)		



1月 大内氏遺跡「凌雲寺跡」にて



4月 運動会参加の留学生テント



11月 ケニア国会議員を囲んで



12月 学生部会主催タイ料理とタイ語会話教室

## ◆実施に伴う効果

- ・留学生や地区在住外国人、大学生、地域住民のパイプ役を担うべく活動することができました。
- ・特に、異文化理解のための調整役となる地域リーダーの育成事業など、住みやすい町づくりを目指すとともに、外国人の日本文化の理解に資することができた。
- ・当団体が実施した諸事業は、留学生にとって、地域住民や一般学生との交流は、単なる国際交流ではなく、本音の交流となつて、仲間意識を高揚するものとなつています。
- ・留学生たちにとって忘れられない交流体験や日本文化の素晴らしさを満喫したようで、親日留学生が急増しました。
- ・地域においては、風の会の活動が刺激となつて、地元平川小・平川中学校において、留学生交流授業などを積極的に取り組むこととなりました。
- ・留学生家族から、平川地域が本当の意味で住みやすさを実感できるようになつたとの声が多数あつた。
- ・地域の人たちと留学生家族が、スーパーやコンビニなどで気軽に声掛けができる情景が、いつもの情景になりつつある。一方、留学生家族が見知らない地域の人たちにも話しかけるようになってきた。
- ・留学生の自転車等のマナーが段々よくなつてきているように感じる。
- ・参加した日本人学生による海外留学や海外青年協力隊の希望者が増えてきている。当会には、元JICA職員もいるので、学生にアドバイスする。11月には、モンゴルに海外技術研修員で教員となつている学校へ、JICAを通じて、山口国体で使用したサッカーボールやバレーボールを支援し、大変感謝された。
- ・山口大学留学生支援室との連携により、新規留学生生活説明会のカリキュラムに、必ず風の会の年間活動資料を提供していただくなど、大学側の理解度が深まった。
- ・多文化共生地域として、モデル的な位置づけとなりつつある。
- ・地区の交流センター職員が、当会の活動等に理解されるようになり、当会の諸行事に参加されたり、積極的なお手伝いをいただいている。
- ・山口大学学長戦略室の国際・社会連携担当副学長との意見交換会などで、発言力が高まつてきた。
- ・イスラム系留学生家族から信頼され、2回目の出産サポート(医師との医療通訳、妊婦の送迎等)を行った。

## ◆苦労した点

- ・モスLEM留学生家族とモスLEM以外の留学生の料理づくりにおいて、ハラール材料を別に仕入れるなど、特別に気をつけているが、これも多文化共生社会を理解するうえで重要なことと理解している。
- ・東アジア留学生たちは金銭面で苦しいため、行事参加の負担金を安価や無料にするなどしていることから、当会スタッフ(会費とは別)の負担も増大となつてきているが、マツダ財団の支援により、多少なりとも助かっている。また、留学生たちの参加機運の醸成となつている。今後も引き続き、負担軽減を図りたい。

## ◆今後の課題・発展の方向性

- ・外国人が300人以上居住している同地区において、多文化共生社会は避けて通れない中で、山口大学との連携が益々重要になつてきている。留学生たちの居住環境においても、高額家賃で悩むことも多く、地区内のアパート経営者の中で、留学生への負担軽減を理解される経営者らとの交流会を設置し、短期(数か月程度)の居住が可能で、しかも安価(敷金、礼金無し、家賃2万円以下)で居住できるアパートを紹介できるシステムを大学側と確立していきたい。大学側からの要望でもある。
- ・地域でできる留学生家族の生活支援対策や育児支援対策等について、自分たちの役割を考えていきたい。平成24年度事業では、手始めとして、留学生と地域の親と幼児を対象に、子ども交流事業を実施する予定である。
- ・留学生たちを交えて、課題を整理し、関係機関等へ提言していけるようになりたい。
- ・帰国留学生とのネットワークを構築し、グローバルに、末永く国際理解や国際交流が図れるようにしていくことが大事であり、本音の交流を活発化したい。インターネットの活用やスタディ・ツアーも平成24年度では計画する。

## ◆活動を終えての感想・意見等

- ・地域における青少年(大学生、地域住民)に、国際理解を一層推進し、留学生との交流の中心的な役割を担わせ、多文化共生のモデル的な地域を目指す。そのために、平成23年度からスタートした風の会学生会部会をしっかりと養成していきたい。
- ・山口市内の大学、留学生、地域住民、関係機関などから、風の会の活動が浸透したことで、活動に理解の輪が広がり知名度が高まった。そうしたことで、子育て交流関係では、他の子育て団体から、お手伝いしたいとの声もかかるなど、今後、コラボレーションを図っていきたいと思う。
- ・これらの諸活動に参加した留学生たちから、帰国前に、多くの思い出と日本・日本人に対する意識の変化(好意的)があつたことから、親日留学生を育成していくことを主眼に今後も活動していきたいし、地域における国際交流の重要性を再認識した。その成果とはいえないが、私たちが、日ごろ留学生ケアをしているパキスタン留学生の一人が、日本人に感謝することを態度で示したいということで、東日本大震災の翌日に、宮城県内の被災地での避難所において、カレーライスの炊き出しを実行したことが、NHKで放送されましたが、こうした親日留学生の活躍は今後も期待される。
- ・こうした活動をご理解いただいているマツダ財団には、この支援が大変価値のあるものと思つている。今後活動も飛躍的な展開ができたことに感謝。